

全校田植え

5月27日に全校生徒267名による全校田植えが行われました。この取り組みは、農作物に感謝するとともに、生徒各自の1年が稔り多いものとなることを祈念して開催され今年で4年目になります。開会式で生物資源

系列3年の藤田典花さんは「1株1株丁寧に植えて、みなさんが普段食べているお米のありがたみを感じてください」と話しました。その後、成田農先生から田植えの方法を教わり、学年ごとにわかれて能代西高の圃場で田植えに挑戦しました。

農業に精通した2～3年生は慣れた手つきであっという間に植えていきました。初体験となる1年生はぬかるみに足を取られながらも、あきたこまちの苗を3～4本ずつ丁寧に植えていきました。

晴天のもと行われた全校田植え後は緑の絨毯が完成し、秋には全校生徒による稲刈りが予定されています。収穫後には収穫感謝祭で『だまこ鍋』にして食べられるほか、西高祭でも一般のお客様に販売されます。



← 植え方を教える成田先生



↑ 田植えを楽しんでいます！



↑ 手際よく植える3年生



最新田植え機の実演を見学

能代西高校の圃場30aで、キセキ東北能代営業所の協力のもと最新田植え機の実演が行われました。これは当地域における、あきたこまちの『37株の疎植』の適応性を調べることを目的としています。

はじめにキセキ東北能代営業所のスタッフから、地力、深さに応じて肥料を調整するセンサーがついていることやGPSがついているため、タブレットにより圃場を確認できることなどが説明されました。作業を見学した生徒からは「肥料の調整で生育のムラがなくなると思う」や「倒伏の防止につながるのではないか」といった感想が聞かれました。